

素材を創造させる“塗”と

私たちヒラノテクシードは1935年の創業以来、熱と風の技術を追求し、“塗る”技術を融合させ、時代の流れの中で進化する、素材を化学し、高品質並びに高付加価値の製品を生み出す設備を提供する『コーティング装置のトップ企業』として成長してまいりました。薄型テレビや携帯電話、さらには太陽電池や燃料電池等さまざまな製造現場を支えるのが当社の技術です。

FPD用光学機能性フィルム

フラットパネルディスプレイには、さまざまな機能性フィルムが使われています。当社は近年大型薄型テレビで脚光を浴びている液晶並びにPDP用ディスプレイパネルの中核を占める偏光板フィルム、反射防止フィルム、光拡散フィルム、電磁波防止フィルム、保護フィルム等の“機能性フィルム”を生産する精密クリーンコータを製造しております。



ディスプレイの前面板に貼り、画面の表面反射・映り込みを抑え、反射光を低減する反射防止フィルム等

フレキシブル基板（FPC）

携帯電話に代表されるモバイル端末は近年、薄型・軽量化が急速に進んできました。また、自動車関連でも耐熱性や屈曲性が厳しく要求されます。当社では、これらの分野に使用されるフレキシブル基板の原反となるポリイミドフィルムの成膜装置や、そのフィルムと銅箔などを張り合わせる機械を製造しております。



ポリイミドフィルムに銅箔を張り合わせてできたフレキシブル基板

先端技術

コア
テクノロジー

目立たないけれど、大切な仕事

“商品”は知っているけれど“どのような”道具で“どのように”つくられているかは、意外と知らないものです。当社では、創業以来培ってきた“熱”と“風”の技術【乾燥技術】に【コーティング技術】【ラミネーティング技術】【制御技術】を融合させ、お客様に高精度な機械を提供し、数多くの商品の製造において重要な部分を担い社会に貢献してまいりました。

そして今、私たちはエネルギー分野を中心に環境に貢献すべく取り組み、またさまざまな素材の製造プロセスに貢献すべく技術開発を行っております。

「エレクトロニクス」「高分子化学」「包装」「医療」「産業新素材」等、あらゆる分野において“塗る”“貼る”“乾燥する”“成膜する”という技術で当社の機械が関わっています。

目立たないけれど、大切な仕事です。

“乾”の技術

主力商品

子会社

塗工機

素材に多様な機能を持たせる

化学物質を素材に塗り、“薄い膜”を形成すると、素材だけでは不可能な多彩な機能を付加できます。

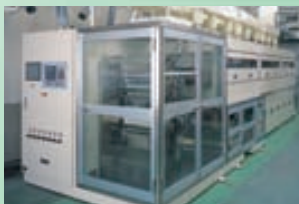
例えば、液晶やプラズマのFPD（フラットパネルディスプレイ）。フィルムに薄い膜をつくり、それを数種類貼り合わせることで、鮮明な画像が生まれます。この“膜をつくり”“貼り合わせる”のが当社の「塗工機」の役割です。



薄膜成型装置

高品質のフィルムを生み出す

液晶・プラズマ・携帯電話などの電子回路のコア部品、フレキシブルプリント基板。この基板の元となる、極めて薄いポリイミドフィルムをつくるのが、当社の「薄膜成型装置」です。フィルムの厚さや品質の均一性が重要となるこの分野で、当社の装置は高い評価を得ています。



ヒラノ技研工業株式会社
株式会社ヒラノエンテック
ヒラノ光音株式会社



株主の皆さまへ

株主の皆さまには、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、第86期中（平成21年4月1日から平成21年9月30日まで）の決算を終了いたしましたので、その概況につきましてご報告申し上げます。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

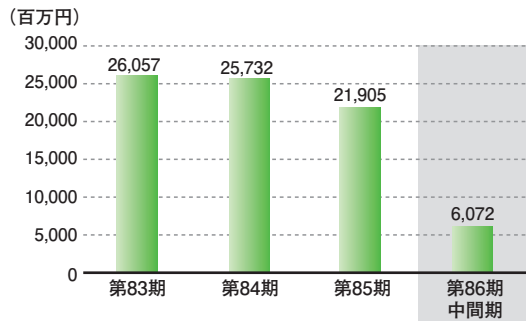
平成21年12月

取締役社長
三浦 日出男

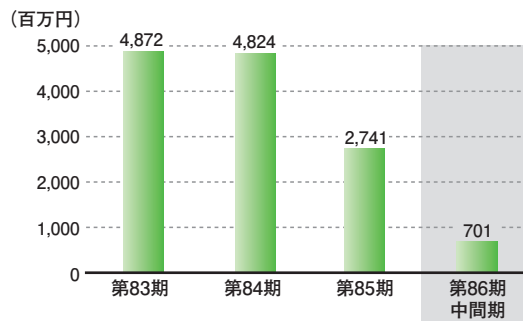
業績ハイライト

Financial Highlights

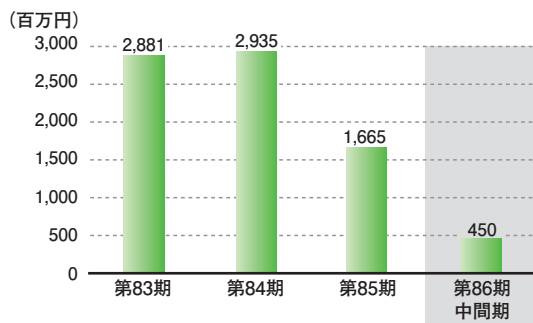
連結売上高



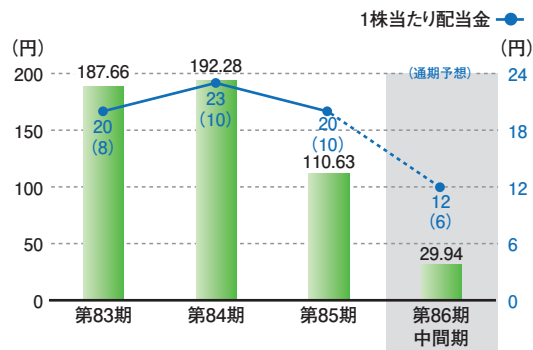
連結経常利益



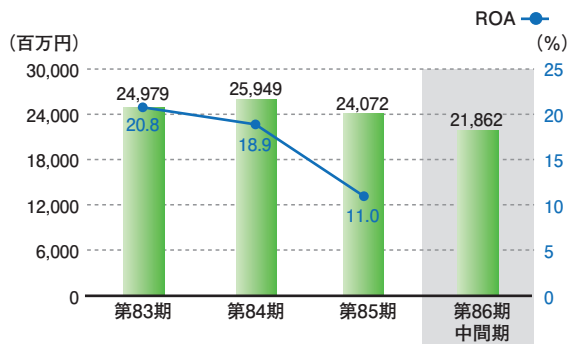
連結中間(当期)純利益



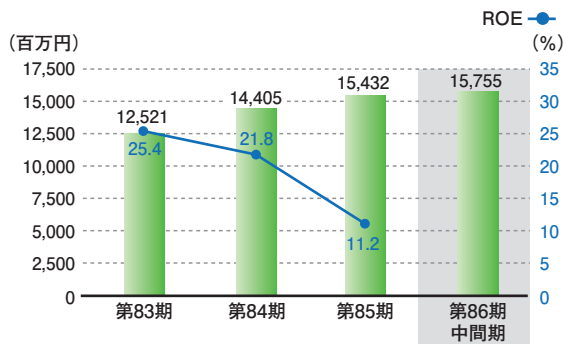
連結1株当たり中間(当期)純利益／1株当たり配当金



連結総資本／ROA



連結自己資本／ROE



事業の概況

Review of Operations

事業の経過および成果

当中間連結累計期間におけるわが国経済は、世界的な景気の低迷から一部では財政政策の効果もあり回復の兆しはあるものの、依然として生産活動や雇用情勢面においての戻りは遅く設備投資の減少、個人消費の低迷などにおいて一層の厳しさが見られる状況となりました。

このような状況のもと、当社グループは環境エネルギー分野および電気電子部材関連分野を中心に高精度薄膜塗工装置を提供すべく邁進してまいりましたが、受注状況は依然として厳しくその結果、売上高も低調となりました。一方、利益面では徹底した経費削減によるコストダウン効果により当初予想よりは好調に推移いたしました。外部環境の大幅な悪化の影響を受け、厳しい状況で推移いたしました。

その結果、当中間連結累計期間の売上高は6,072百万円（前年同期比42.7%減）となり、利益面では経常利益701百万円（前年同期比47.0%減）、中間純利益は450百万円（前年同期比44.4%減）となりました。

受注残高につきましては、厳しい受注環境のもと、9,656百万円（前期末比14.5%減）、うち国内は6,165百万円（前期末比18.7%減）、輸出は3,490百万円（前期末比5.9%減）となりました。

通期の見通し

今後の見通しにつきましては、一部で設備投資需要が見られ始めたものの、個人消費の回復については不透明な状況であり、当社グループにおきましても急激な受注環境の悪化から厳しい状況であります。

このような状況のもとリチウムイオン電池および太陽電池関連装置等エネルギー分野に注力し、『お客様の満足を第一に品質の向上』を目指し、高性能の生産設備を提供すべく新製品・新技術の開発に積極的に取り組み、徹底したコストダウンの実施により生産性の向上に邁進し、企業体質の向上を図ってまいり所存であります。

現段階での通期連結売上高は12,500百万円、連結経常利益は700百万円、連結当期純利益は450百万円を見込んでおります。

なお、当社は株主の皆さまへの配当金は企業収益の状況により決定し、安定的な配当の維持を基本としております。この度の中間業績ならびに通期業績予想を踏まえて、当中間期の配当金につきましては、1株当たり6円とさせていただきます。また、年間では期末配当金6円とあわせ、1株当たり12円とさせていただきます。

セグメントの状況

Segment Report

塗工機関連機器

各種コーティング、ラミネーティング装置並びにこれらに付随する乾燥熱処理装置及びライン制御装置

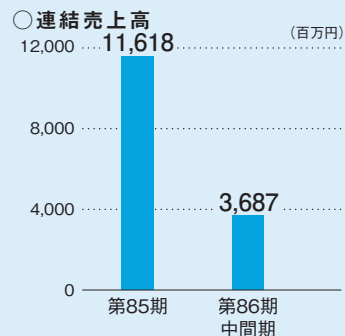
当部門は、リチウムイオン電池向け電極コーターが堅調に推移するものの液晶表示用機能性フィルム製造装置関連は急激な受注減となり低調に推移いたしました。

その結果、売上高は3,687百万円（前年同期比38.6%減）、うち国内売上高2,044百万円（前年同期比45.0%減）、輸出売上高1,642百万円（前年同期比28.4%減）となりました。また、営業利益は567百万円（前年同期比12.7%減）となりました。

受注残高につきましては、6,404百万円（前期末比7.1%減）、うち国内は3,877百万円（前期末比17.9%減）、輸出は2,527百万円（前期末比16.3%増）となりました。



塗工機



化工機関連機器

各種成膜装置、不織布・高機能繊維製造装置、フラットパネル塗布乾燥装置、真空蒸着装置並びにこれらに付随する乾燥・熱処理装置及びライン制御装置

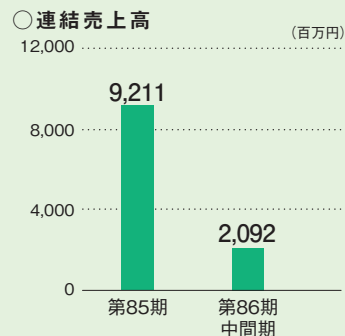
当部門は、主力の電気・電子部品向け成膜装置が低調に推移いたしました。

その結果、売上高は2,092百万円（前年同期比48.3%減）、うち国内売上高1,254百万円（前年同期比57.4%減）、輸出売上高837百万円（前年同期比23.9%減）となりました。また、営業利益は87百万円（前年同期比82.9%減）となりました。

受注残高につきましては、3,107百万円（前期末比26.7%減）、うち国内は2,168百万円（前期末比20.4%減）、輸出は938百万円（前期末比38.1%減）となりました。

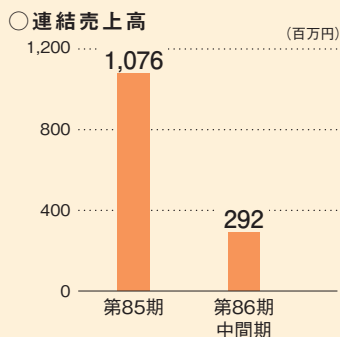


薄膜成型装置



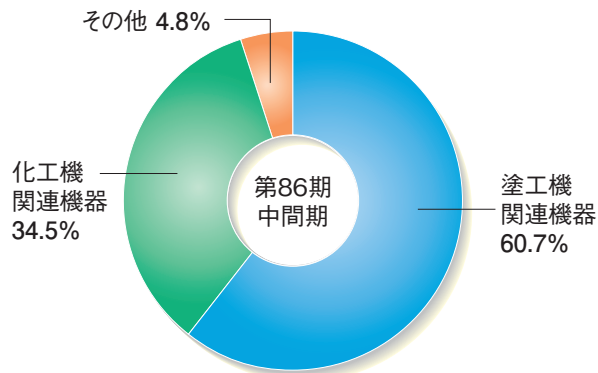
その他

染色整理機械装置、各種関連機器の部品の製造及び修理・改造等



セグメント別構成比

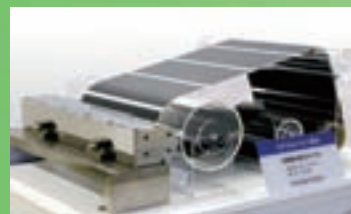
○連結売上高



世界最多実績！ 世界最高速！ ヒラノテクシードが誇る、リチウムイオン電極コーター！

Lithium-Ion Battery Coater, No.1 market share globally and the highest production speed in the world!

ヒラノテクシードは、日本発のリチウムイオン電池開発の当初から20年の長きにわたり、業界へリチウムイオン2次電池 (LiB) の正負電極用コーターを納入し、その実績は既に250台を上回るまでになりました。今や携帯電話、パソコンなどのモバイル系からハイブリッド、電気自動車などの環境対応車、各種産業機械用などあらゆる分野、そしてLiC (リチウムイオンキャパシター) に世界各国で豊富な実績を有しております。



新型リチウムイオン2次電池 (LiB) 専用テスト機

また、当社ではさらなるユーザー様の各種テストのご要望にお応えするため、従来のテスト機に加え、近日中に新たに専用コーティングテスト機を研究及び実験施設『テクニカム』に配置する予定です。



中間連結財務諸表

Consolidated Financial Statements

中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	前中間期 (平成20年9月30日現在)	当中間期 (平成21年9月30日現在)	前期 (平成21年3月31日現在)
資産の部	25,221	21,862	24,072
流動資産	21,265	17,946	20,107
現金及び預金	6,927	7,123	6,385
受取手形及び売掛金	6,238	3,625	7,878
有価証券	2,731	3,940	2,629
仕掛品	106	2,970	2,947
原材料及び貯蔵品	4,920	109	109
その他	347	182	167
貸倒引当金	△ 6	△ 4	△ 9
固定資産	3,955	3,915	3,965
有形固定資産	2,444	2,574	2,652
無形固定資産	216	176	198
投資その他の資産	1,295	1,165	1,114
投資有価証券	1,056	773	714
その他	240	403	410
貸倒引当金	△ 2	△ 11	△ 11
資産合計	25,221	21,862	24,072
負債の部	10,254	6,107	8,640
流動負債	9,045	4,736	7,224
支払手形及び買掛金	5,829	2,443	4,084
短期借入金	468	50	20
1年内返済予定の長期借入金	—	488	440
未払法人税等	518	267	546
前受金	1,661	980	1,396
賞与引当金	172	170	167
製品保証引当金	22	15	23
その他	371	320	546
固定負債	1,209	1,371	1,416
長期借入金	289	466	499
退職給付引当金	802	774	777
役員退職慰労引当金	116	125	135
その他	1	3	4
純資産の部	14,966	15,755	15,432
株主資本	14,610	15,609	15,312
資本金	1,847	1,847	1,847
資本剰余金	1,339	1,339	1,339
利益剰余金	11,820	12,823	12,523
自己株式	△ 397	△ 401	△ 398
評価・換算差額等	356	145	119
その他有価証券評価差額金	356	145	119
負債純資産合計	25,221	21,862	24,072

中間連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	前中間期 (平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで)	当中間期 (平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで)	前期 (平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで)
売上高	10,595	6,072	21,905
売上原価	8,399	4,683	17,509
売上総利益	2,196	1,389	4,396
販売費及び一般管理費	914	704	1,709
営業利益	1,281	684	2,686
営業外収益	55	29	82
受取利息	9	4	19
受取配当金	12	11	20
その他	32	14	43
営業外費用	13	13	27
支払利息	9	9	17
その他	4	3	9
経常利益	1,323	701	2,741
特別利益	4	5	4
貸倒引当金戻入額	—	5	—
固定資産売却益	4	—	4
特別損失	0	—	8
固定資産売却損	0	—	0
固定資産除却損	—	—	8
税金等調整前中間(当期)純利益	1,327	706	2,737
法人税、住民税及び事業税	504	255	1,035
法人税等調整額	12	0	36
中間(当期)純利益	811	450	1,665

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	前中間期	当中間期	前期
	(平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで)	(平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで)	(平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー			
税金等調整前中間(当期)純利益	1,327	706	2,737
減価償却費	206	197	429
賞与引当金の増減額(△は減少)	6	3	1
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△ 0	△ 5	12
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△ 28	△ 2	54
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△ 3	△ 9	22
製品保証引当金の増減額(△は減少)	△ 5	△ 7	△ 4
受取利息及び受取配当金	△ 22	△ 15	△ 39
支払利息	9	9	17
固定資産売却損益(△は益)	△ 4	△ 0	△ 2
売上債権の増減額(△は増加)	2,807	3,836	893
たな卸資産の増減額(△は増加)	△ 713	△ 25	1,245
仕入債務の増減額(△は減少)	△ 692	△ 1,596	△ 2,384
その他	△ 582	△ 153	△ 413
小計	2,312	2,938	2,460
利息及び配当金の受取額	21	15	39
利息の支払額	△ 9	△ 9	△ 17
法人税等の支払額	△ 1,074	△ 532	△ 1,575
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,249	2,410	907
投資活動によるキャッシュ・フロー			
定期預金の預入による支出	△ 1	△ 1	△ 2
定期預金の払戻による収入	1	1	2
有形固定資産の取得による支出	△ 221	△ 214	△ 500
有形固定資産の売却による収入	12	0	13
無形固定資産の取得による支出	△ 8	△ 8	△ 25
投資有価証券の取得による支出	△ 1	△ 8	△ 52
その他	△ 30	△ 20	△ 37
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 249	△ 252	△ 601
財務活動によるキャッシュ・フロー			
短期借入金の純増減額(△は減少)	80	30	20
長期借入れによる収入	—	250	500
長期借入金の返済による支出	△ 243	△ 235	△ 481
自己株式の取得による支出	△ 2	△ 2	△ 4
自己株式の売却による収入	0	—	0
配当金の支払額	△ 195	△ 150	△ 345
その他	—	△ 0	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 360	△ 109	△ 311
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	639	2,049	△ 5
現金及び現金同等物の期首残高	8,539	8,533	8,539
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	9,178	10,582	8,533

中間連結財務諸表のポイント

中間連結貸借対照表関係

(資産)

流動資産は前連結会計年度末に比べ2,160百万円減少し、17,946百万円となりました。その主な要因は現金及び預金が737百万円、有価証券が1,311百万円それぞれ増加したものの、受取手形及び売掛金が4,252百万円減少したことによります。

また、固定資産は前連結会計年度末に比べ49百万円減少し、3,915百万円となりました。その主な要因は、株式市場の回復により投資有価証券が58百万円増加したものの、有形固定資産が77百万円、無形固定資産が22百万円それぞれ減少したことによります。

(負債)

流動負債は前連結会計年度末に比べ2,487百万円減少し、4,736百万円となりました。その主な要因は支払手形及び買掛金が1,640百万円、前受金が415百万円それぞれ減少したこと及び法人税等の支払により未払法人税等が279百万円減少したことによります。

固定負債は前連結会計年度末に比べ45百万円減少し、1,371百万円となりました。その主な要因は、長期借入金が32百万円、役員退職慰労引当金が9百万円それぞれ減少したことによります。

(純資産)

純資産は前連結会計年度末に比べ323百万円増加し、15,755百万円となりました。その主な要因は、前連結会計年度に係る期末配当金を150百万円支払ったこと、中間純利益が450百万円計上されたことによります。

中間連結キャッシュ・フロー計算書関係

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物は、第1四半期連結会計期間末よりも2,128百万円増加し、10,582百万円となりました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

【営業活動によるキャッシュ・フロー】

営業活動によって得られたキャッシュ・フローは前年同期に比べ1,161百万円増加し2,410百万円となりました。これは主に、売上債権が3,836百万円減少したことによります。

【投資活動によるキャッシュ・フロー】

投資活動によって使用されたキャッシュ・フローは前年同期に比べ2百万円増加し252百万円となりました。これは主に、生産設備導入による有形固定資産の取得により214百万円支出したことによります。

【財務活動によるキャッシュ・フロー】

財務活動によって使用されたキャッシュ・フローは前年同期に比べ251百万円減少し109百万円となりました。これは主に、安定的資金の調達のため長期借入金の借入を250百万円実施し、また短期借入金30百万円が純額で増加する反面、長期借入金の約定弁済を235百万円行ったこと、また、配当金の支払を150百万円行ったことによるものであります。

会社の概況

Company Information

(平成21年9月30日現在)

社名	株式会社 ヒラノテクシード
英文社名	HIRANO TECSEED Co.,Ltd.
創業	昭和10年6月1日
設立	昭和24年7月25日
資本金	1,847,821,888円
従業員数	228名
事業所 本社	〒636-0051 奈良県北葛城郡河合町大字川合101番地の1 電話 (0745) 57-0681
東京支店	〒103-0023 東京都中央区日本橋本町4-8-16 (千城ビル9F) 電話 (03) 3242-5441
インターネット ホームページ	http://www.hirano-tec.co.jp/

役員

取締役社長 (代表取締役)	三浦日出男
常務取締役	馬場英樹
常務取締役	松葉茂美
取締役	桑原茂
取締役	入江伸晶
取締役	定安一男
取締役	松本剛
常勤監査役	高田賢
監査役	長谷川義起
監査役	高谷和光

(注) 監査役長谷川義起氏ならびに高谷和光氏は、社外監査役であります。

子会社

ヒラノ技研工業株式会社 (産業用機械器具製造)
株式会社ヒラノエンテック (繊維機械等部品製造)
ヒラノ光音株式会社 (理化学機器製造)

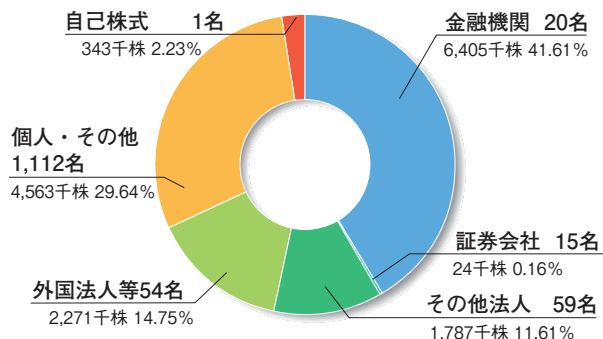
株式の状況

発行可能株式総数	50,000,000株
発行済株式総数	15,394,379株
株主数	1,261名
大株主	

株主名	当社への出資状況	
	持株数 千株	出資比率 %
明治安田生命保険相互会社	1,450	9.41
ヒラノ会	1,160	7.53
伊藤忠商事株式会社	1,000	6.49
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社 (信託口)	981	6.37
株式会社三菱東京UFJ銀行	737	4.78
株式会社りそな銀行	731	4.74
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社 (信託口)	689	4.47
ザチースマンハッタンバンクエヌエイロンド ンエスエルオムニバスアカウント	542	3.52
モルガンスタンレーアードカンパニー インターナショナルビーエルシー	517	3.35

(注) 出資比率は自己株式(343,417株)を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月中
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 (お問合せ先)	〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 Tel. 0120-094-777 (通話料無料)
上場証券取引所	大阪証券取引所 市場第二部
証券コード	6245
公告掲載方法	大阪市において発行する日本経済新聞

【株式に関するお手続き用紙のご請求について】

株式に関するお手続き用紙のご請求につきましては、以下のお電話及びインターネットにより24時間受け付けておりますので、ご利用ください。

(通話料無料) Tel. 0120-244-479 (本店証券代行部)

Tel. 0120-684-479 (大阪証券代行部)

インターネットホームページ <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

ヒラノテクシード ホームページ

<http://www.hirano-tec.co.jp/>

ホームページで当社の事業活動、商品の案内、投資家情報などに関する詳しい情報をご覧いただけます。ぜひご利用ください。





この中間事業報告書は、環境に配慮し、再生紙と大豆油インキを使用しております。